



開園以来20年間で入園者  
30万人を突破しました

## 八雲風穴 入園者30万人 突破

佐田町にある八雲風穴の入園者が8月2日、30万人を超え、30万人目となった鳥取県境港市の親子に特産品などが贈られました。

八雲風穴や須佐神社、出雲大社などを観光する途中での記念となりました。

八雲風穴は、年間を通して気温が10度前後の天然の冷蔵庫として昔から農林水産物の保管に役立てられてきました。近年は、夏場の避暑地として、市内外から多くの方が来園されています。

冷風が吹き出すのは、この地域がまだ海だった太古の時代に、火山の爆発により流出した溶岩が堆積して山となり、その岩と岩の間を流れる空気が、山懐を流れる地下水によって冷やされて出てくるためといわれています。

開園時間は午前9時から午後5時までで、今年のオープン期間は、9月7日(日)まで。入園料は、小学生以上が100円、小学生未満は無料です。

## 暑いレースを展開 ～スイムランin多伎～

8月3日、遠泳とランニングの総合タイムを競う「第23回スイムランin多伎」が多伎町の田儀港を発着点に開催されました。

レースは遠泳2.4キロとラン2.1キロのロングと、距離がそれぞれ半分のショートで、年代や性別ごとに7部門に分かれて開催。選手



スタート直後遠泳に挑む選手たち

たちはスタートと同時に海に飛び出し、最初の遠泳を行い、泳ぎ終わると陸上にあがりランに挑みました。コースには6カ所のエイドステーションが設けられ、地元の子もたちがボランティアで水やスポンジを選手たちに手渡し、レース中の疲れを癒しました。

地域の大人から子どもたちまで、たくさんのボランティアの活動により、暑いなかでのレースでしたが、たくさんの方が完走されました。



レース中の疲れを癒す子どもボランティアたち

## 3年ぶりに開催 =神戸川 川の夏祭り=

平成18年の豪雨災害により、多大な被害を受けた佐田町飯栗東村地区で、3年ぶりに「神戸川 川の夏祭り」が開催されました。

祭り当日の15日は、きれいに整備された遊好の里の河岸で地元住民らが、カヌーや魚釣りなどさまざまなイベントを楽しみました。

この祭りを主催した飯栗東村振興協議会の大谷昌武会長は「久しぶりの開催で、どれだけの人が来てくれるか心配だったが、盆で帰って来た人にも川の楽しさを思い出してもらいたいですね」と話しました。



護岸が整備された神戸川でカヌーを楽しむ人たち



初めて自然ふ化により生まれたアフリカクロトキ

## トキ近似種飼育施設でヒナ誕生

～市で初めて自然ふ化に成功!!～

国際保護鳥トキの分散飼育を目指す出雲市で、近似種のアフリカクロトキ2羽の自然ふ化に成功しました。また、昨年続き4羽の人工ふ化に成功し、今シーズンあわせて6羽のヒナが誕生しました。

恩賜上野動物園からアフリカクロトキ5羽を譲り受け、平成18年4月から飼育を始めています。昨年はこの5羽が繁殖期を迎えなかったため、上野動物園から余剰卵を譲り受け、ふ化訓練を行ったところ、2羽のヒナの人工ふ化に成功しました。

今年、アフリカクロトキが初めて繁殖期を迎え、4羽の人工ふ化と2羽の自然ふ化に成功しました。

これによりこの施設で飼育する近似種は、アフリカクロトキ13羽となり、平成18年11月から飼育しているショウジョウトキ4羽をあわせ、合計17羽となりました。

市では、今年度からトキ保護センター(仮称)の建設準備も進めており、ハード面だけでなく、飼育の技術面での環境が整っていることを実証しました。

## 科学を体験

=青少年のための科学の祭典2008鳥根大会 開催=

8月2日・3日に、「青少年のための科学の祭典2008鳥根大会」が出雲科学館で開催され、約5,700の方が科学の楽しさを体験しました。

大会には、大気圧の実験や「星座早見うちわ」の工作など46種類のブースが設置され、学校や幼稚園の教諭、大学生、企業および市民ボランティアの皆さんが実験や工作の指導にあたりました。実験や工作には新しいアイデアや工夫が取り入れられ、子どもから大人まで多くの方がブースを自由に回りながら、「へえ、なぜだろう?」「どうしてこうなるの?」という日ごろ身近に感じている不思議を、五感を使って確かめていました。



好奇心あふれ、目を輝かせながら熱心に実験や工作に取り組む子どもたち